

栃窪すごくイイ話「栃窪小学校・こぼれ話」



ある日の樽山

今回、お話をうかがった笛木健作さんは栃窪で生まれ育ち、小学校の校長先生まで務めました。その健作さんは「栃窪はもともと教育を大事にする地域」と話します。

栃窪は標高500㍍あたりに位置し、冬は積雪4㍍ほど。南魚沼市内でもさらに雪深く、かつては「陸の孤島」と呼ばれました。その中でも学びの灯を絶やさないようにと学校は大切にされてきました。学校の除雪などは親の作業。冬に限らず教員が生活したのは健作さんや正哉さんの家。地域ぐるみで支える「村の学校」でした。

栃窪小学校から歩いて30分以上下った地域にある岩之下地区。「冬になると特に通学が大変だった」と健作さんは振り返ります。小学校4年生以上は親がかんじきで道を作りながら、雪道を登りました。ただし1～3年生には大変すぎるため、冬季分校が開設されました。

そこへ教員の代わりとして呼ばれたのが約60年前、高校を卒業したばかりの健作さんでした。「子どもと触れ合い、これが一生の仕事かな、と。岩之下の分校が教師の原点です」とニコニコうれしそうに話します。その後、働きながら通信教育を受け、正式な教員になったそうです。

地域の人に守られ、たくさんの人を育ててきた栃窪小学校。栃っ子の皆さんも、この歴史をつむいでいく大切な一人一人であることがなおさら強く感じられます。

※学校だよりに、「栃窪すごくイイ話『栃窪小学校 前編・後編』」を掲載しています。ぜひ見てください。

(文責：PTA 本間)